

こどもホタルレンジャー2017

活動レポート

審査員特別賞

① 団体名 (学校、企業、NGO/NPO など)	よみがな いまがわこどもしぜんくらぶ 今川こども自然クラブ
② 活動名 (タイトル)	よみがな いまがわのほたるやみずべのいきものをまもろう 今川のホタルや水辺の生き物を守ろう
③ 活動場所 (様子や環境など)	・今川 (静岡県湖西市大知波) …2級河川で、湖西連峰から浜名湖に注ぐ数kmの河川。 ・おちばの里親水公園 (静岡県湖西市大知波) …自然豊かな湖西市管理の公園 ・不動谷の森 (静岡県湖西市大知波) …再生した棚田で米作りと森遊び、森作りを行っている。
④ 活動したこどもの人数・学年	(例: 小学〇年生 〇人、 中学〇年生 〇人) 小学4年生 9人、小学5年生 10人、小学6年生 8人、中学生 2人 合計 29人
⑤ 活動継続年数	2008年4月1日 ~ 2018年1月11日 上記の期間に 88 回実施した。

⑥ 活動グループ (学校・企業・NGO/NPO など) の紹介 (400 字程度以内で簡潔に)
<p>当クラブは、今川に生息するゲンジボタルもっと広く市民に知っていただき、ホタルの保護の大切さを啓発するとともに、子どもたちにも呼び掛けて、平成20年4月1日に「今川こども自然クラブ」を発足させた。湖西市内の小学生・中学生・高校生が、月1回程度の活動を行い、今川周辺の生き物調査や水質調査、ごみ拾い、森づくりへの協力、森遊び、棚田の米づくりなどを実施してきた。平成22年6月に開催した「ホタル観察会」以来、多数の市民が参加し、子どもたちの取り組みが広く市民に知られるようになってきた。クラブに参加している子どもたちの中には、初めてホタルを見たという子もいて、子どもたち自身がその活動の大切さを再認識するようになった。また、今川とは馴染みの少ない子どもたちも活動に参加しており、市内すべての小学校の子どもたちの参加による活動であるということが、市民の自然保護の意識を変えていくよい機会ともなっている。</p>
⑦ 活動の概要 (600 字程度以内で簡潔に)
<p>湖西市北部を流れる「今川」では、かつてゲンジボタルが乱舞していた。しかし、近年は、その数を減らし、地区民からも忘れ去られた存在となっていた。数の減った原因は、今川の水質悪化によるところが大きい。そのため、今川のホタルを呼び戻そうと、子どもたちが中心となって保護活動を行う「今川こども自然クラブ」を平成20年4月に発足させた。月に1回の活動では、森遊び、水生生物調査、水質浄化、自然観察会などを実施している。今川の生物調査をするとともに、水質浄化をしていくために、水質調査を実施し、その状況を調べている。さらに、ごみ拾いも実施し、水質が悪化しないように活動している。こうした活動によって、6月から7月までの長い期間にわたって、ゲンジボタルやヘイケボタルの飛ぶ姿が、今川の下流から上流にかけて見られる。今川には、ゲンジボタルの幼虫やカワニナだけではなく、絶滅危惧種のナガレホトケドジョウ、要注目種のカワムツ、カワヨシノボリなどの希少種も数多く生息している。ホタルだけを保護するだけでなく、今川の生態系の保護という視点で活動していくことの大切さに気づき、「森の恵み」にも関心を持って活動を進めている。</p>

※この用紙には、活動した子どもたちの先生や団体の代表 (おとな) が記入してください。

⑧ 活動の目標を記入してください。(300字程度以内で簡潔に)

- ◎クラブの目標「自然の恵みを生かし、楽しみ、守る、子どもの育成 ～持続可能な『おちばの里』の営みを学ぶ子ども～」
- ◎重点とする目標
- ◇おちばの里（里山）の自然を楽しむ、おちばの里（里山）の営みを学ぶ。
 - ◇五感を使って活動する。
 - ◇共に生きようとする心を育む。（自然、人、もの）
- ◎目指す子どもの姿
- ◇身近な自然に関心を持ち、自ら働きかける子ども
 - ◇動植物を愛し、生命を大切にできる子ども
 - ◇環境保全に向けて、進んで実践・行動できる子ども
 - ◇自分の考えをしっかりと表現できる子ども

⑨ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

1 ホタルを守る活動

① 生物調査・川の掃除

・ホタルの小川に住む生物調査をした。カワニナがたくさん見られ、サワガニ、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエルなどたくさんの生き物が見られた。生き物調査の後、川のゴミを拾ったり、外来種ですぐに増えるクレソンを取ったりして、川をきれいになっている。

② ホタル観察会(年2回 ただし、観察可能期間は1か月ほど)

・ホタル観察会には、毎年200人を超える方が来園する。クラブ員の1年間の活動によって、ゲンジボタル、ヘイケボタルが観られるようになった。2種類のホタルが同じ場所で観られる貴重な生息地となっている。

③ 自然観察会(年2回)

・ナガレホトケドジョウやカワムツ、サワガニ、カワヨシノボリなどを楽しく観察している。

2 水質・生物調査(月に1回実施)

・今川上流の生き物調査と水質調査をした。カワニナ、カワムツ、ヨシノボリ、テナガエビ、ナガレホトケドジョウ、カワゲラ、ヘビトンボ、ハグロトンボ、オニヤンマ、ツチガエルなどの様々な水生生物が観察できた。水質は、透明度も高く、パックテストでもきれいなことが分かり、クラブ員によって希少種が多く生息する貴重な川であることも分かった。

3 きれいな川を守るための活動①

・森を守る活動…豊かな水を生み出す森をよく知り、整備をした。植樹をしたり、棚田の田植えをしたりして、楽しく活動することができた。さらに、間伐したコナラやクヌギを使って、シイタケのほだ木を作り、間伐によって森を守るとともに森の恵みをいただくこともできた。

・除伐材でマイ鉛筆作り…森作りで切った木の枝を利用して、鉛筆を作った。

4 きれいな川を守るための活動②

・森の恵みと植樹…森作りでは、クヌギ、アベマキなどのドングリがなる木の苗を育てて、植樹をした。ドングリは動物のえさになり、落ち葉は栄養豊かな表土になる。また、ドングリでシイの実クッキーを作って食べた。とてもおいしいと好評であった。

・水を汚さない活動…手洗いや食器洗いは、雨水をためて利用している。

・今川が注ぐ浜名湖のアマモ場の観察を行って、浜名湖の環境保護活動に協力した。

5 四季を感じる活動

・自然素材を活かした作品づくり…枯れ葉や木の実、小枝などの集めた自然素材を使って、作品づくりをした。一人一人の工夫によって素晴らしい作品に生まれ変わった。

6 自然保護活動を広げる取り組み

・平成28年8月には「コカ・コーラ環境教育フォーラム」、平成29年2月には「こどもエコクラブ全国フェスティバル(静岡県代表)」にて活動報告をした。また、活動を新聞記事にしていたいただき、多くの方に知らせている。

・活動を発信…おちばの里親水公園の休憩所内に活動コーナーを作って、活動内容を写真を付けて掲示している。

・活動したことを学校での学習に生かすようにしている。

※活動した子どもたちの意見・考えを取りまとめて、先生や団体の代表が記入してください。

⑩ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

◎1年間の活動の様子(平成29年1月(第9回)～平成29年7月(第3回)まで)

「今川こども自然クラブ⑨」

自然を守る活動、自然を楽しむ活動 平成29年1月21日



【手作り遊具で遊ぶ子どもたち】



【アサギマダラの幼虫を観察する子どもたち】



【除伐材を切る子どもたち】



【除伐材を利用した「マイボールペン」づくりをする子どもたち】

除伐材を利用した手作り遊具で遊んだり、生き物を観察したりして、自然のおもしろさやよさを体感した。その後、除伐材を使ってマイボールペンを作った。リサイクルの使い方も慣れ、自然の恵みを利用することや、自然と共生することの大切さを学んだ。

〈平成29年1月(第9回)〉

「今川こども自然クラブ⑩」

自然を守り親しんだ1年間を振り返る。 平成29年2月6日



【スタッフが育てた早咲きの「大知識」の苗を植える子どもたち】



【雨の中でも、楽しく種蒔をする子どもたち】



【17本の苗を植えた今川緑の遊歩道】

1年間の活動を通して、今川こども自然クラブに参加した子どもたちは、自然といはれぬながら楽しく遊び、その中から自然のおもしろさ、不思議さを学んだ。そして、知らず知らずのうちに自然と共生しながら、自然保護活動の大切さを自覚していった。

〈平成29年2月(第10回)〉

「今川こども自然クラブ①」

自然とのふれあいを楽しむクラブの活動 平成29年5月7日



【市内の小字生27人が参加した田植え】



【稲田の田植えをする子どもたち】



【夢中になって田植えをする子どもたち】



【開伐材を利用した遊具で遊ぶ子どもたち】



【森の自然を生かした遊具で、夢中になって遊ぶ子どもたち】

第1回は、オリエンテーションと、田植え、森遊び、森の学習を行った。きれいな水の流れる不動谷の森で、聖山の自然の恵みを実感しながら、その大切さを学んだ。

〈平成29年5月(第1回)〉

「今川こども自然クラブ②」

生物調査・自然素材を生かした遊び等 平成29年6月3日



【清掃活動をする子どもたち】



【ササユリを観察する子どもたち】



【ロープのぼりをするクラブ員】



【今川の生物調査をする子どもたち】



【今川の水質調査をする子どもたち】

今川や、森の中の川、稲田の生物観察を行った。貴重な生物がたくさん生息することを確認した。また、それぞれの場所に生息する生き物の違いを比べながら生態系について学んだ。

〈平成29年6月(第2回)〉

「今川こども自然クラブ(特別活動)」

ホテルの保護活動(ホテル観察会) 平成29年6月10日



【観察会に集まった子どもたち】



【ホテルについての話を聞く参加者】



【ゲンジボタル】



【ホテルを観察するクラブ員】



【ホテルを観察する子ども】



【夢中になってホテルを観察する親子】

ホテルの保護活動のために、ごみ拾いをしたり瓦取りをしたりしてきた1年間の活動によって、たくさんのゲンジボタル、ヘイケボタルを見ることができた。

〈平成29年6月(特別活動)〉

「今川こども自然クラブ③」

公園の整備、生物調査、炭焼き体験等 平成29年7月15日



【アジサイの花摘みをする子どもたち】



【生物調査をする子どもたち】



【稲田の生物調査をする子どもたち】



【竹炭用の竹を切り子どもたち】



【除伐した竹を利用して炭を作る子どもたち】



【活動のまとめをする子どもたち】

活動の場となっている公園をいつもきれいにしておくこと、ごみ拾いや樹木の手入れをしながら、除伐した竹を利用して炭を作ったり、生物保護のために調査をしたりした。

〈平成29年7月(第3回)〉

⑩ 活動の内容や調べたことを記入してください。写真やイラストなども添付してください。(2000字程度以内で簡潔に)

(これまでに実施した具体的な活動内容についてご記入ください)

◎1年間の活動の様子(平成29年8月(第4回)～平成29年12月(第8回)まで)

「今川子ども自然クラブ④」

川遊びと生物調査、清掃活動

平成29年8月19日



【清掃活動をした子どもたち】 【環境保全のために活動する子どもたち】
 【生物調査をする子どもたち】 【川遊びを楽しむ子どもたち】
 【小卒のおやつを食べる子どもたち】 【子どもたちが育てているミカンの木】
 自然保護活動の一環として川や公園のゴミ拾いをして、いつもきれいな環境づくりに取り組んでいます。保護の手、安全を確保しながら、自然の恵みを受け、自然の恵みを感じるを味わった。活動後は、活動を振り返りながら、小卒のおやつを食べました。

〈平成29年8月(第4回)〉

「今川子ども自然クラブ⑤」

棚田の稲刈りと森遊び、稲穂の試食等

平成29年9月23日



【稲の刈り方の説明を聞く子どもたち】 【上手に稲刈りする子どもたち】
 【田中になって稲刈りする子どもたち】 【手作り道具で遊ぶ子どもたち】
 【田で揚げた稲穂を食べる子どもたち】 【活動のまとめをする子どもたち】
 5月に苗植えをしてから大切に育ててきた稲を刈り取った。恵みを受けている稲穂が、田んぼに刈り取った稲を干し終え、森遊びを楽しんだ。稲穂の揚げ物に興味津々であった。

〈平成29年9月(第5回)〉

「今川子ども自然クラブ⑥」

稲の脱穀とシイの美クッキー作り等

平成29年10月15日



【脱穀活動をした子どもたち】 【森遊びの後、干してあった稲を遊ぶ子どもたち】
 【干した稲を背負いで運ぶ子どもたち】 【脱穀を手伝う子どもたち】
 【シイの美クッキー作りを楽しむ子どもたち】 【自然の恵みを楽しむ子どもたち】
 登山では、自然の恵みによって井がでることを、井作りを通して体験することができた。毎年繰り返される登山の喜びは、自然の恵みを上手に利用していることを学んだ。

〈平成29年10月(第6回)〉

「今川子ども自然クラブ⑦」

自然保護活動、自然の恵みを生かす活動

平成29年11月19日



【清掃活動をする子どもたち】 【自然素材を利用したシイタケを収穫する子どもたち】
 【シイタケを大量に収穫した子どもたち】 【生物調査と水質調査をする子どもたち】
 【自分たちで作った新米をうれしそうに食べる子どもたち】
 11月の自然の様子を観て、シイタケの収穫体験をしました。また、自分たちが棚田で作った新米をみそ汁といっしょにおいしくいただきました。自然の恵みに感謝しました。

〈平成29年11月(第7回)〉

「今川子ども自然クラブ⑧」

自然を守る活動、自然を感じ楽しむ活動

平成29年12月2日



【自然素材をきれいにする子どもたち】 【自然素材を利用した作品づくりをする子どもたち】
 【自然素材のよさを体験しながら、自分の思いを作品に表現する子どもたち】
 【自然素材を利用したツリー作りをする子どもたち】
 冬の自然素材のよさを体験しながら、自分の思いをクリスマスツリーに表現し、満足感と達成感を得た。できあがった作品は大切に自宅に持ち帰った。

〈平成29年12月(第8回)〉

⑪ 活動で工夫したこと・気づいたことなどを記入してください。(800字程度以内で簡潔に)

ホタルの保護から始まった今川子ども自然クラブの活動が、保護をするためには水質調査や生物調査をしていくことが大切だと気づき、環境に対する私たちの興味や関心が高まり、楽しく活動することにつながっていった。ホタルは年々増え、公園を訪れる人たちの目を楽ませている。さらに、きれいな川を守るために、森を知る活動から森づくりにつながったり、雨水をタンクにためて、少ない水で洗うことに取り組んだりして、独創的な活動に発展した。そして、このことによって私たちの活動が地域にも広がっていくことになった。その地域の自然を守りながら再生をしていく取り組みは、動植物を移入して再生していく活動とは全く違い、生態系を壊さない取り組みとして評価していただいている。

しかし、活動している私たちは、森の恵みを感じながら、ツルにぶら下がったり、川遊びをしたりして、楽しみながら活動していることが大変な喜びとなっていった。やらされている活動ではなく、やりたくなる活動になっていることが、私たちの活動の充実にもつながった。里山の自然の中で、自然保護活動をしたり、遊んだりしながら、自然のおもしろさ、不思議さ、大切さを実感することができた。

【クラブ員の声】

- ・参加する前は、全然自然にふれることがなかったので、参加してとてもよかった。またやりたい。
- ・ふだんできない自然の本当の姿を実感し、自然がますます好きになった。
- ・自然を使った遊びや、自然を守る活動ができたからよかった。
- ・森の自然を守ることができ、今川も守れた。
- ・自然のことが楽しみながら分かったし、公園がきれいになって生き物がすみやすくなってよかった。
- ・土曜日に遅く起きることが少し克服でき、ひまな時間を有効に使えたからよかった。授業の図工の時間が楽しくなったり、自然の物で楽しく時間を過ごすことができたりした。昔の人は今とちがうけど、充実した生活を送っていたことが分かった。

⑫ 活動からわかった課題、自分たち「子どもホタルンジャー」にできることを記入してください。

(800字程度以内で簡潔に)

私たちの活動の成果が、社会科や理科、総合的な学習の時間、図工(美術)等の学習に生かせるようにした。そして、森の仕組みや大切さ、米づくり、巣箱作りと設置等、私たちが楽しく活動しながら、日常生活や学校での学習に生かせるようにしてきた取り組みを、さらに発展させ、家や学校では体験しにくい活動に取り組んでいきたいと考えている。

豊かな自然の中で活動することによって、生き生き、そしてのびのびと過ごしている。自然は、私たちの成長にとって大変大切なことであるので、今川子ども自然クラブの活動の中に、学校での活動に役立てるようにしていきたい。具体的には、森の遊び場作りを進めることと、活動が広がるようにいろいろな団体と協力しながら自然保護活動を進めていきたいと考えている。

私たちの先輩には、今川子ども自然クラブでの体験を作文に書いたり、興味や関心を高めたりして、成果を上げている子もいる。平成22年度「静岡県水の作文コンクール」では、県知事賞と県教育長賞を受賞し、平成22年度「静岡県環境作文コンクール」では、県教育長賞を受賞している。さらに、静岡県子ども環境大使として、ハワイに派遣されたクラブ員もいる。平成23年度は、「静岡県水の作文コンクール」「静岡県環境作文コンクール」とともに局長賞を受賞している。平成24年度・25年度にも、「静岡県水の作文コンクール」で入賞をしている。平成26年8月に「全日本中学生水の作文コンクール」で「内閣総理大臣賞」をいただいた作文が、「日本文教出版株式会社」より平成28年度「中学校道徳用副読本」に掲載されている。平成28年8月には、「コカ・コーラ環境教育賞優秀賞」を受賞したり、平成29年2月には「子どもエコクラブ全国フェスティバル静岡県代表」に選ばれたりしている。

クラブ員一人一人が、環境への高い問題意識をもったことと、多くの方々に自然保護の大切さを実感していただいたことが、9年間の活動で得られた成果だと考える。その成果は、子どもホタルンジャー事務局からの「環境大臣賞」や、子どもエコクラブ全国事務局からの「コカ・コーラ賞」につながったと考えている。さらに、その活動が、浜松市と湖西市が協力して取り組んでいる「浜名湖の水をきれいにする会」からの「湖水美化功労賞」。そして、「湖西市教育委員会特別表彰」「第1回ふるさと貢献賞」につながったと考えている。私たちの取り組みは、さらに広がっていくようにしていきたい。

【子どもホタルンジャーにできること】

- ・すずしい森の中でいろんな人と楽しく遊ぶことができたから、ゲームがなくても自然の物で工夫すれば楽しい道具が加工できて、楽しく過ごせそうだった。
- ・いつも道路を歩いていたりとすると木があるところにゴミがあって、「いやだなあ。」と思ったけど、拾うことができなかった。活動をして、自然を守るためにやった方がよいことに気づくことができた。

※活動した子どもたちの意見・考えを取りまとめて、先生や団体の代表が記入してください。

⑬ 選考された場合の発表者(子ども2名)の氏名・学年

氏名(ふりがな)

学年:

氏名(ふりがな)

学年:

※決まっていない場合は、記入しなくても構いません。

⑭ 活動して「気がついたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っで自由に記入してください。写真や絵などでもOKです。

(例)・活動を始めたきっかけ ・どんなことに興味を持ったか ・やってみたくと思ったこと
 ・感じたことやおもしろかったこと ・大人と一緒に改善していきたいこと など

- ・特に米作りがとても楽しかった。自分たちで田植えから収穫まで全部やって食べたときは、とてもおいしいと感じた。それは、自分たちで作ったからだと思う。
- ・1年間の自然ラブの中で楽しかったのは全てです。ゴミ拾いは自然のためにやっているし、生き物観察会は生き物の生態が分かったから、しかも米はとてもおいしかったからよかった。
- ・いろいろな生き物を知ることができたり勉強になったりしたことです。
- ・生き物観察会でいろいろな生物を知ることができた。米作りは稲を刈る方法を知ることができた。クラフトはいろいろな物を作ることがよかった。
- ・ぼくは、ゴミ拾いと生き物観察会をやってよかったと思いました。ゴミ拾いは、公園がきれいになりました。それに、この里山の動植物にとっていい環境になったと思うからです。生き物観察会は、川にどんな生き物がいるかを改めて知って、川の生き物を持ち帰ってはいけない気持ちが強まった。
- ・水生生物調査で、今川にすんでいる魚などのいろいろな生き物を見られてよかった。クラフトは、自然のいろいろな物を使って、ボールペンやツリーなどを作ることができて楽しかった。ゴミ拾いでは、ゴミを拾って、公園がきれいになってよかった。
- ・生き物観察会の時、観察ができて、魚の種類が分かったからよかった。今川だけじゃなくて浜名湖も知りたい。
- ・米作りを初めて経験したこと、釜でご飯を作ったこと。ボールペンを木で作ることを体験したこと。ゴミをたくさん拾ってきれいにしたこと。
- ・自然の物を使ってクラフトができたから楽しかった。
- ・ゴミ拾いは、今川の自然を守れたし、生き物観察は、今川にすんでいる生き物を見られたからよかった。
- ・知らないうちに環境によい活動をしていてよかったと思います。
- ・森や川には、いろいろな生き物がいることを知りました。米作りでは、田植えや稲刈りなどの貴重な体験ができたのでよかったです。
- ・森では、二酸化炭素を植物が吸ってくれてためたり、酸素に変えたりしてとても大切なこと、米作りは米という字のように八十八の苦労があると聞いていたので、本当だと分かりました。松ぼっくりでクリスマスツリーを作ったことも楽しかったです。ぼくは、虫よりも海や川、湖の生き物に興味があるので、今川の生き物の観察は楽しかったです。
- ・ホタル観察会は、とてもきれいに光っていて、神秘的でよかったです。
- ・自然がちよっときれいになったし、自然の落ち葉を使って肥料を作れるということを知ったこと。



【活動発表をするクラブ員】



【田植えの新聞記事】

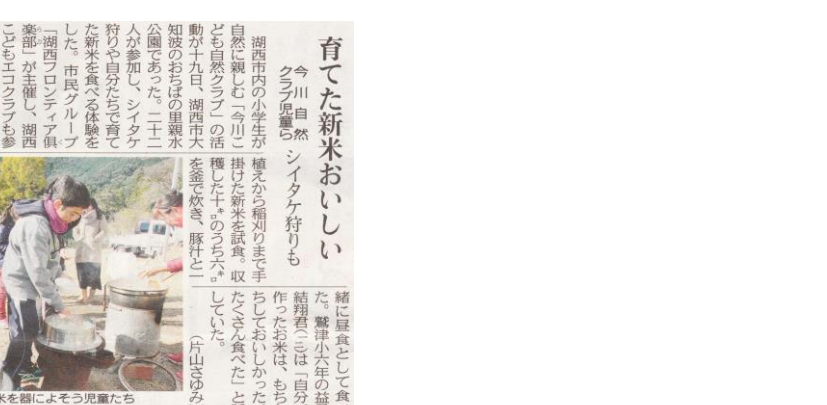


【稲刈りの新聞記事】



環境浄化
 ビオトップ
 竹炭づくり

市民グループ支援 知波田小児童が蒸し焼き作業
 知波田小児童が、環境浄化のための竹炭づくりを行いました。竹炭は、水質浄化や脱臭効果があるため、環境浄化に効果的です。児童たちは、竹を切ったり、蒸し焼きしたりと、大変な作業を行いました。完成した竹炭は、学校や家庭で活用されます。



育てた新米おいしい
 シイタケ狩りも
 クラブ員

湖西市の小学生が、育てた新米を収穫し、シイタケ狩りを行いました。新米は、もちもちしていておいしいです。シイタケ狩りでは、自然の中でシイタケを収穫し、調理しました。児童たちは、収穫した新米を食べて、とてもおいしかったです。

【竹炭を作って学習に生かすクラブ員】【新米を食べるクラブ員の新聞記事】

※活動した子どもたち自身が記入してください。